

# 特攻の史実を 後世に残す②④

知覧特攻平和会館では、「知覧からの手紙」（知覧特攻遺書）を、平和を願い、知覧から世界へ語り継ぐため、ユネスコ世界記憶遺産登録を目指しています。

## 任務完遂の覚悟

### 家族に書き綴った遺書

生駒寛彦大尉は京都薬学専門学校出身です。この遺書は、生駒大尉が特攻出撃前夜、父母、姉、弟へ書き残した遺書です。任務完遂の覚悟を記しており、『寛彦敢攻の報至れば、必ず国旗を立てて祝ってください』と特攻に向かう使命感を書き残しています。



## 生駒 寛彦 大尉

出身地 滋賀県 大津市  
第113振武隊（享年23歳）

父上様  
母上様

出撃命令下り 寛彦はいよいよ明日征きます  
世界無比の皇国に生を享け 日本一の  
御両親様を持つ寛彦は 正幸兄の志をついで  
大空で御奉公出来た事に 無限の喜びを抱き  
明日の轟沈行に臨みます 父上の御訓を  
体しお母様のお言葉のように必ず任務完遂  
の覚悟であります 今更言なし 寛彦敢行  
の報至れば 必ず国旗を立てて祝って下さい  
遺品の処分は 御両親様のおよろしいように唯  
後に続く者をお願いします  
御両親様充分御自愛ありて 天寿を全うして  
下さい 雅俊君 道生君 立派な軍人となり  
お父様の志をついで下さい  
正位兄さん 会わずに残念でした 醜敵必ず  
撃滅します すが姉さん たつ姉さん  
文字姉さん 私に代って御両親様のお世話願  
います 皆様 お元気で  
では 征きます

出撃前夜 寛彦

知っていますか？

指定文化財⑧

立山のかくれがま



江戸時代の薩摩藩では、一向宗（真宗・浄土真宗）を信仰することが禁止され、厳しい弾圧が行われました。このような中、信者たちは「がま」と呼ばれる斜面に掘られた横穴に隠れて「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えていました。南九州市内でも伝承地を含め多くのがまが知られています。

知覧の立山に残るかくれがまは、入口から狭い通路を5メートルほど進むと高さ約1メートルで数人が入れる空間と、一番奥には、壁面を削り、本尊を置く場所も設けられています。

元々、がまの前には家が有り、入口が見えないようになっていたと言われています。また、この家に集まることを名目に実際は交互にがままで念仏を唱えたとも伝わります。江戸時代に信仰を守り抜いた信者たちの苦勞がしのべれます。

